

『一家に1枚光マップ（第2版）』の変更点

- (1) 発光ダイオードの記述を修正。
- (2) モルフォ蝶の羽根の電子顕微鏡写真を差替え。
- (3) 偏光メガネの写真を差替え
- (4) 「細胞手術」の項目を削除し、新たに「蛍光タンパク質」の項目を掲載。また、これに伴い、可視光域の項目の位置を一部入れ替え。「細胞手術」の箇所に、「太陽電池」を、「太陽電池」の箇所に「ステンドグラス」を、「ステンドグラス」の箇所に、「発光ダイオード」を移動させ、「発光ダイオード」の箇所に、新規の「蛍光タンパク質」を挿入。
- (5) 「光CT」に写真を追加。枠タイトルを「近赤外光イメージング」に変更し、説明文を修正。
- (6) 「血糖値計・果実糖度計」に写真を追加。
- (7) 「レーザーショー」の写真を差替え。
- (8) 波長900nm付近のスペースに、「レーザー」「光ディスク」の項目を設け、「レーザー」には説明文を付し、写真を追加。また、「光ディスク」には説明文を付す。
- (9) 「血液の赤色」項目枠内のグラフの波長を850、800nmの記載とし、大きさを調整。
- (10) 「3次元ナノ加工」の記述を修正。
- (11) 「アンタレス」の写真の説明文を修正。
- (12) 「リゲル」の説明文を修正。
- (13) 「軟X線（極短紫外を含む）」の記述を修正。
- (14) 「レーザープラズマ光源」に写真を追加
- (15) XFEL（X線自由電子レーザー）の記述を修正。また、「SACLA」の写真の追加。
- (16) PET（ポジトロン断層法）の記述を修正。
- (17) ノーベル賞の年表の追記：下記を追記
 - ・2006年 宇宙マイクロ波背景放射の黒体放射（J. C. マザー、G. F. スムート）
 - ・2008年 緑色蛍光タンパク質の発見と開発（下村脩、M. L. チャルフィー、R. Y. チェン）(化学賞)
 - ・2009年 光ファイバーとCCDの開発（C. K. カオ、W. ボイル、G. E. スミス）
 - ・2014年 超解像蛍光顕微鏡の開発（E. ベツィグ、S. ヘル、W. E. モーナー）(化学賞)
 - ・2014年 青色発光ダイオードの発明（天野浩、赤崎勇、中村修二）
- (18) 標題横の γ 線の記述を修正。